

析した結果についてのべる。

2-28. 高速度写真の工業界への応用(その三) 繊維機械関係 (15) 植村恒義。撚糸機, 精紡機, 織機, 高速ミシン等の糸の高速運動を高速度写真により解析した結果についてのべる。

2-29. 高速度写真の工業界への応用(その四) 各種機器関係 (15) 植村恒義。捕鯨砲, 時計, 砥石の破壊等の高速度カメラによる解析結果についてのべる。

### 13.00~15.45

#### マイクロ波, 固体物理, 磁性

2-30. 硼酸による核磁気共鳴吸収(10) 〇柿内賢信, 小松八郎, 大木巽。硼酸による核磁気共鳴吸収曲線の形から下した水素原子の配置に関する推論についてのべる。

2-31.  $\alpha\text{-Fe}_2\text{O}_3$  の磁気共鳴吸収について (15) 熊谷寛夫, 大野和郎, 〇阿部英太郎, 林敏雄, 島田順二, 岩永賢三。 $\alpha\text{-Fe}_2\text{O}_3$  単結晶について, その寄生的強磁性に由来すると思われる磁気共鳴吸収についてのべる。

2-32. 硫酸クロームの常磁性共鳴吸収について (15) 大野和郎。2 価の硫酸クロームの常磁性共鳴吸収のスペクトルを分析した結果について報告する。

2-33. 電場冷却処理した  $\text{Pb}(\text{Ti}\cdot\text{Sn})\text{O}_3$  固溶体の誘電異常 (10) 野村昭一郎。 $\text{Pb}(\text{Ti}\cdot\text{Sn})\text{O}_3$  を電場処理し, その誘電率の電場及び温度による変化を調べることにより, 前回報告した  $\text{Pb}(\text{Ti}\cdot\text{Sn})\text{O}_3$  の機構を明かにする。

2-34.  $\text{PbThO}_3$  の研究 (10) 沢田正三, 〇田幸稻。Perovskite 構造を持つ  $\text{ABO}_3$  型物質の研究において, B イオンの役割を調べるのに大きな Th イオンを持つ  $\text{PbThO}_3$  の研究は興味がある。 $\text{Pb}(\text{Ti}\cdot\text{Th})\text{O}_3$  の研究も行いつつある。

2-35. パルミチンアミド結晶内の炭素鎖の配列について (15) 櫻井敏雄。パルミチンアミド単結晶の X線廻折写真から, 相隣る分子が, 普通の長鎖化合物と違つてお互いに傾むいて配列している事を見出した。

2-36. 反射法による Ge の光学定数の測定 (10) 〇石黒浩三, 林敏治。Ge 面での反射光の強

さとその位相の測定よりマレー図表を用いて光学定数を決定する試み及び光学定数に対する強光照射の影響等を報告する。

2-37. 結晶粒界の電子顕微鏡観察 (15) 〇田岡忠実, 青柳鐘一郎。 $\text{Ni}_3\text{Mn}$  単結晶の (110) 面に見られる結晶のモザイク粒界が転位の適当な配列であることを電子顕微鏡写真で示す。

2-38.  $\text{Ni}_3\text{Mn}$  合金の規則格子相の電子顕微鏡観察 (15) 田岡忠実。 $\text{Ni}_3\text{Mn}$  合金の規則格子生成の初期に電子顕微鏡によつて規則相の観察が出来た結果を報告する。規則相の大きさは 500~1000Å の短径 2500~5000Å の長径のダ円体である。

2-39. Ni-Mn 系合金の磁性 (15) 田岡忠実, 〇本多龍吉。 $\text{Ni}_3\text{Mn}$  成分の近傍での Ni-Mn 合金について磁性, 特に抗磁力と磁気異方性の規則格子との関係について, 実験結果を述べる。

2-40. 珪珪素鉄の研究 (15) 五弓勇雄, 〇阿部秀夫。珪素含有量 6 乃至 7% の高珪素鉄鋼を, 純鉄又は低珪素鉄と薄板加工後, 板表面から珪素を拡散させて製造した。その磁氣的性質について発表する。

2-41. 逆ヴェーデマン効果について (10) 木村鍊一, 〇大山哲雄。この効果の磁化曲線は直流測定においても測定法により異なることに注意し, 交流測定による曲線と比較して磁化の機構を考察する。

2-42. 磁歪共振の測定 (10) 木村鍊一, 〇能勢宏, 桑島達。強磁性体棒の磁歪共振に於て, 勵起電圧に対する誘起電圧の振巾及び位相差を各位置で同時観測した結果, 見掛上の異常が判明した。

第 3 日, 10 月 9 日 (土)

第 1 会場 9.00~11.30

#### 高分子, 生物化学

1-39. 大腸菌ファージ  $T_1$  の超遠心及酸沈澱による精製について (15) 中村正好。表題の研究から  $T_1$  ファージは  $T_2$  ファージに比し, 酸による不活化が著しい為めに, その精製に酸沈澱法を用いることが不適當である結果を得た。